令和8年度修士論文題目一覧

統合新領域学府ユーザー感性スタディーズ専攻修士課程

学位	学生氏名	研究課題	論文公開可否	論文概要可否
修士(芸術工学)	しみず　ふぶき 清水　楓吹樹	国内の独立出版形態をとる雑誌における継続的運営に関する研究 －国内事例の実態調査と編集者へのインタビューを通じて－	否	可

国内の独立出版形態をとる雑誌における継続的運営に関する研究

－国内事例の実態調査と編集者へのインタビューを通じて－

A Study on the Sustainable Operation of Independently Published Magazines in Japan:
An Empirical Survey of Domestic Cases and Interviews with Editors

2FS23003G　清水　楓吹樹　SHIMIZU Fubuki

1. 研究背景・目的

国内の紙の雑誌市場は長期的に縮小し、流通・収益環境も変化している。一方、商業出版社や大手流通とは異なる主体によるインディペンデントマガジン（Independent Magazine、以下 IM）は、独自のテーマや表現を読者に届ける出版実践として展開されている。しかし国内では IM の定義が十分に定まらず、少部数・少人数で制作されるため、資金、流通、業務負担、発行者の生活との関係において不安定性が生じやすい。本研究は、国内 IM を対象に、①IM の概念的輪郭、②運営継続を可能にする条件を探索的に検討する。ここでの「持続可能性」は、発行者が継続を望む場合に、内発的動機と運営条件の観点から継続的発行が可能な状態を指す。

2. 研究方法

文献調査、国内 31 誌の事例調査、半構造化インタビューを組み合わせた。事例調査では、運営形態、刊行頻度、発行部数、流通方法、SNS 活用、継続状況などを公開情報から集計した。さらに、継続・休止・廃刊という異なる帰結を持つ国内 IM 編集者 3 名に半構造化インタビューを行い、SCAT 法で発話を分析した。

3. 国内 IM 事例調査の結果

31 誌の運営形態は、自社出版 20 誌、独立（自費）10 誌、委託 1 誌であり、多くで発行者自身が出版主体となっていた。刊行頻度は不定期発行が多数を占め、流通方法ではオンライン販売、書店販売、イベント販売を組み合わせる事例がみられた。一方、公開情報のみでは資本関係、収益構造、編集判断の過程、継続・休止・廃刊理由を十分に把握できなかった。そのため IM の独立性は、外部関係の有無ではなく、編集方針・コンテンツ・発行判断における発行主体の自律的コントロールから検討する必要があると整理した。

4. インタビュー分析の結果

編集者 A、B、C はいずれも制作への内発的動機を有していたが、帰結は廃刊・休止・継続に分かれた。編集者 A は、運営母体の意思決定が存続判断を左右し廃刊に至った。編集者 B は、本業の多忙や同一形式の反復による停滞感が休止につながった。編集者 C は、流通経路、収入源、業務負荷を分散し、雑誌制作を兼業・受託仕事と接続することで、継続を支える運営構造を形成していた。以上から、IM の継続・休止・廃刊の分岐は内発的動機の有無だけでは説明できず、IM 編集者自身による外部関係の調整、生業との接続、流通・収入・業務負担の分散が重要であることが確認された。

5. 考察・結論

IM の運営継続を支える条件として、第一に、外部に委ねる機能と自ら保持する判断領域の区別が確認された。印刷、流通、経理、事務などは外部化しうる一方、編集方針・コンテンツ・発行判断では発行主体が自律的コントロールを保持する必要がある。第二に、流通経路、収入源、業務負荷の分散が、特定の制度・資本・個人への過度な依存を軽減していた。第三に、生業や兼業と接続する運営が長期的継続を支える条件となっていた。少部数・低頻度刊行を基本とする IM にとって、大手取次経由の全国流通は容易ではない。そのため、独立書店、直取引、自社 EC、アートブックフェアなど、複合的な流通経路が読者接点を形成していた。ただし、これらは受発注、配送、精算、在庫管理などの負担を編集者自身に戻す側面も持つ。第一の問いに対して、本研究は、IM の概念的輪郭を広告非掲載、取次非利用、商業出版社からの独立といった形式的条件だけでは説明できないことを示した。外部資本、版元、流通組織との関係があっても、それらが編集方針・コンテンツ・発行判断を直接規定しない限り、発行主体は編集的自律性を保持しうる。したがって本研究では、IM を「外部の利害関係者からの直接的介入がなく、発行者が編集方針・コンテンツ・発行判断を自律的にコントロールする出版実践」と捉える。第二の問いに対しては、IM の継続には内発的動機に加え、編集的自律性、外部化と保持の境界設定、流通・収入・業務負荷の分散、生業との接続が必要であることを整理した。

6. 本研究の意義と限界

本研究の意義は、第一に、国内 IM を直接対象化し、31 誌の事例調査により運営実態を整理した点にある。第二に、異なる帰結を持つ編集者の語りを比較し、継続を意欲の有無だけでなく、外部関係、流通、収入、業務負荷、生業との接続を含む複合的条件として捉えた点にある。第三に、IM の独立性を、編集方針・コンテンツ・発行判断への直接的介入の有無から捉える分析枠組みを提示した点にある。本研究には、公開情報調査では各誌の収支構造、資本関係、意思決定過程、実際の労働量を十分に把握できなかったこと、インタビュー対象が 3 名に限られることという限界がある。